塩竈浪漫（しおがまろまん）

みなと塩竈 ゆめ博

保存版

2019年
10月1日(火)
▼
10月31日(木)

平成30年 日本商工会議所より
みなと塩竈 ゆめ博
きらり輝き観光振興大賞「優秀賞」を受賞しました

目 次

塩竈市・本気のおもてなし!! 2
しおがま街歩きMAP 3
千二百年・神々の回廊 4

みなと塩竈 ゆめ博 明日より開催！

塩竈市・本気のおもてなし!!

塩竈を舞台に繰り広げられる「みなと塩竈・ゆめ博」が、10月1日(火)から31日(木)まで開催される。今年のテーマは「塩竈市 本気のおもてなし!」。1カ月間にわたり塩竈の海・食・歴史文化を体験できる。

歴史が古い塩竈には、まだまだ知られざる顔がたくさんある。その一端に触れることで興味を持っていただき、「普段から食事や買い物に来たり、散策を楽しんだりする身近な地域として捉えていただきたい」という町の人の熱い思いが伝わるゆめ博。市内全域をパビリオンに模した斬新な企画は大好評で、一昨年は過去最高の延べ11万3000人が訪れた。5回目となる今年も、華やかでにぎわう1カ月になりそうだ。

期間中は、ライトアップされた幻想的な雰囲気の中で月を愛でる「しおがまさま神々の月灯り」、新鮮な魚介類と豊富な食材が勢ぞろいする仲卸市場の「どっと祭」、宮城海上保安部の巡視船公開をはじめ、市内の企業・団体のパビリオンで約50の催しが展開される。詳しいイベント内容・日程は2～4ページで紹介しているが、塩竈の魅力を一足早くお伝えするため、仙石線本塩釜駅をスタートして"ぶらり歩き"してみた。

ノスタルジックな商店街

新店舗が若者誘う

仙台駅からJR仙石線で約30分、本塩釜駅に降りると、ポストの上に載ったマグロのモニュメントが目に留まった。塩竈は日本有数の生マグロの水揚げを誇る港町。今年もブランドマグロ「ひがしもの」の販売が始まっている。モニュメントは、1991年の市制50周年記念に、塩釜郵便局が寄贈したものだそうだ。

観光案内所でいただいた散策マップ「しおナビ」を手にして、駅から5分。老舗のお菓子屋さんの前を横切って本町の通りに入る。どことなく懐かしい雰囲気で、駅前とは時間の流れが違うように感じる。「昔はここにデパートがあっていろいろなお店が並び、大勢の人で賑わったのよ」と、地元の人が教えてくれた。今は、リュックを背負った散歩スタイルの人と時々すれ違うぐらいのほどよい距離感があって、ゆったり町歩きが楽しめる。

思わず見入ってしまったのが、江戸時代から続く老舗、浦霞酒造の玄関に移築された向拝だ。仏堂や社殿の屋根の正面に差し出された庇(ひさし)の部分で、参拝者が礼拝するところだという。鹽竈神社の別当寺として室町時代に建立された「法蓮寺」の遺構で、「NPOみなとしほがま」のメンバーが保存に動いたらしい。詳しい経緯が、掲示板に記してある。隣接した酒ギャラリーには幅広い商品がラインナップ。お猪口(ちょこ)を求めると利き酒体験ができる。

▼彩り豊かな味巡り

鮮やかな黄色のドアが開くと、満面の笑顔の子どもがコーンを手に出てきた。通りにある果物店の店主が、独学で開いたジェラートのお店だ。中に入ると女子高生のグループがおいしそうに食べている。さんざん迷ったあげく、私は、カボチャを一つ!」。

通りを挟んだ向かい側の真新しいお店はチョコレートの工房。すれ違った男性は、大事そうに小袋を抱えていた。プレゼントだろうか。塩竈の藻塩を使った藻塩ショコラはお土産に人気だという。手作りの愛情が伝わってくる。近くには明治創業の蒲鉾店もあり、1軒1軒のぞいて買い物をしていると、あっという間に時間が過ぎていく。

▼明治初期の3階建て

通りの角に郷愁を誘う町屋があった。「まちかど博物館(旧えびや旅館)」という看板はまだ新しい。大隈重信も宿泊したという明治初期の3階建ての旅館の遺構だそうで、繁栄した港町の様子がしのばれる。旅館として営業した後はいろいろな店舗に変わり、東日本大震災の津波による浸水と老朽化で、一時は解体される運命にあった。しかし歴史的な価値が見直され、NPOや市民有志の働きかけで「歴史を今日に伝える貴重な遺産」として保存活用されることになったと、案内板に紹介されている。

階段を上った2階が入り口。江戸時代の塩釜港を再現したジオラマや歴史を紹介するパネルが展示されている。3階には当時の客間がそのままの形で残してある。桜の間の天井には、東北工業大学建築学科の学生さんたちが修復した満開の塩竈桜が鮮やかによみがえっている。ボランティアのガイドさんが、船底天井や長押の貝殻象嵌など、建物の細部に見られる職人さんたちの巧みな技を紹介してくれた。通常は土、日曜の開館だが、期間中は常時(12時～16時・定休は水、木曜)。1階は軽食ができるカフェで、町の人のくつろぎスペースにもなっている。

木造3階建ての旧えびや旅館。凝った装飾が随所にみられる。

上／紅葉に初雪の神社境内。季節ごとに見るものを魅了する。
左／七五三の参詣客。 右／人力車はゆめ博期間(10/5・6・12・13)の臨時運行。

異変知らせる神釜の水

高台にはレトロな美術館

まちかど博物館の向かいに、松尾芭蕉も訪れたという御釜神社がある。塩竈の名の由来とも伝わる神釜が祀られている神社で、鹽竈神社の末社になっている。

閉ざされた扉の向こうに四つの神釜が奉安されている。中に入っている水はどんなに雨が降ってもあふれず、日照りが続いても干上がらないそうだ。また、天災が起こる直前には、水の色が変わると伝わる。東日本大震災が発生した3月11日の朝、四つの釜のうち二つが、普段の水とは異なり澄んで見えたそうだ。

社務所に拝観料100円を納めると、釜守の女性が厳かに扉を開けてくれた。果たして今日の水は…。

御釜神社からすぐの高台にある「塩竈市杉村惇美術館」にも足を延ばした。1950年建造の公民館を改修した建物の外壁には、今は採掘されていない貴重な塩竈石が使われている。磨かれた木の階段を上った2階に展示室があり、杉村惇画伯の静物画や代表作「婦人像」など23点が展示されている。画伯は東京市牛込区(現東京都新宿区)出身。疎開後仙台に転居するまでの約20年、塩竈市内で創作に励んだ。1階にはレトロなカフェ「塩竈本町談話室」がある。コーヒーと焼き菓子をいただき、画伯の絵の余韻を味わった。

▲境内には興味深い御釜の伝説や、藻塩焼神事などが記された看板が立つ。

歴史伝える老舗の佇まい 景観そのものが博物館

鹽竈神社の門前、宮町へ抜ける。記憶に残っていた通りは、祓(はらい)川沿いに柳が揺れる風情のある空間だったが、今は装いを一変。川は地下水路になり、ゆとりある歩道を確保した広い通りになっている。歩道脇に小さな水路を見つけた。埋設した祓川をイメージしたもので「塩竈曲水」と呼ばれているそうだ。流れに沿って「塩竈百人一首」を刻んだ歌碑が立つ。

通りに面して老舗の建物が点在し、町の歴史を現在進行形で伝えてくれる博物館のようだ。国の登録有形文化財に指定されている丹六園の店舗は大正初期の町屋建築だが、江戸時代の建物の材料を再利用して建てられたという。塩竈の商家の特徴である軒下の出桁(だしげた)が見られる。

隣の味噌醤油醸造元、太田與八郎商店の大正モダニズム建築の工場と昭和4年に釘を使わずに建てられた店舗付居宅は塩竈市文化景観賞を受賞している。同じ賞を受賞している萩原味噌醤油醸造元の建物は江戸後期の町屋建築。大きな仕込み樽の前でポーズを決める幼児の姿がほほえましい。享保年間創業、阿部勘酒造の佇まいに昔ながらの杉玉が趣を添え、景色に溶け込んでいる。

鹽竈神社には三つの参道(表参道、七曲坂、東参道)がある。「女坂」といわれる緩やかな石段の東参道を上る途中に、総合商社カメイの初代社長が大正時代に建築した和洋併置式住宅があり、無料で一般公開されている。本町を散策しながら立ち寄ったお店で見つけたお土産に味噌も加わって肩にズシリと重いが、境内まではもうすぐだ。

◇ ◇

2時間弱のミニ旅だったが、塩竈の見所はまだまだたくさんある。「ゆめ博」で、ぜひ町の魅力の一端に触れていただきたい。

魅力発信ストラップ発売

塩釜商工会議所は、塩竈の魅力を発信するため、ポストカードや扇子、「御座船チョロQ」などさまざまなPRグッズを制作しているが、第7弾として「オリジナル塩竈ストラップ」を発売した。

種類は塩竈の代表的なイベントの写真を絵柄にした2種。一つは塩竈みなと祭の前夜祭に打ち上げられる花火と御座船を撮った「鳳凰、はばたく」。もう一つは鹽竈神社の「流鏑馬(やぶさめ)神事」で、裏面は共に「鹽竈」のロゴが刻印されている。サイズは縦4㌢、横2㌢。希望小売価格は1個1000円(税込み)で、市役所売店のほか、まちかど博物館、亀井邸、しおがま・まちの駅などで販売している。連絡先は塩釜商工会議所022(367)5111

美食のまち塩竈

塩竈は、豊かな海の幸だけではなく、多彩なグルメが楽しめる美食のまち。藩政時代に参詣者や遊里通いの人たちをもてなす食文化が開花したとも言われ、その接客文化は現在へと受け継がれています。昔も今も、舌の肥えた人たちを満足させる塩竈の美食をぜひ楽しんでください。

イタリアン
和食
焼肉・ホルモン
フレンチ
スイーツ
ラーメン・中華
寿司
カフェ
ジェラート

塩竈のおすすめのお店はインターネットでお調べください

みなと塩竈 海保カレー

店舗スタンプを3つ集めて
"海保グッズ"や"海保カレー食事券"を当てよう！

みなと塩竈海保カレー ゆめ博スタンプラリー

ゆめ博期間中、みなと塩竈海保カレー提供店でスタンプラリーを開催します。海保カレー1食ごとにスタンプ1個を押印し、スタンプ3つ集めたら、63円切手貼付のうえ応募はがきを郵送ください。抽選で計60名様に下記景品をプレゼント！

- ●海上保安庁グッズ…30名様
- ●海保カレー食事券…30名様

開催期間 10月1日(火)～31日(木)
応募締切 11月8日(金)必着

※応募はがきは、みなと塩竈海保カレー提供店で入手ください。
※当選は発送をもってかえさせていただきます。

みなと塩竈海保カレープロジェクト委員会事務局(塩釜商工会議所内)
TEL.022-367-5111

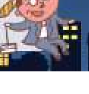
尾島町ナイトスポット

尾島町は国分町に次ぐ県内屈指の歓楽街

10/1[TUE] ≫ 11/30[SAT]

塩竈の歓楽街「尾島町」では、ゆめ博にあわせ32店の飲食店が飲み放題プランや晩酌プランを用意して皆様をお待ちしています。時間や金額、サービス内容は参加店ごとに設定。参加店をはじめ詳細は「尾島町ナイトスポットチラシ」もしくは「みなと塩竈・ゆめ博ホームページ」でご確認ください。

1 「尾島町探検・ほろ酔セット」
30分 1,500円～2,000円(税込)
で飲物とおつまみを提供する晩酌プランです。

2 「尾島町・ゆめ倶楽部」
60分or90分 3,000円(税込)
の飲み放題プランです。